

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後デイサービスtoiro白楽		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 1日	～	2025年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	46	(回答者数) 34
○従業者評価実施期間	2024年 11月 1日	～	2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・環境整備を行うことができる。	・物の保管場所を決めており、児童の怪我のリスクを低減している。 ・また、日々の清掃に加えて定期的な清掃や環境整備の機会を設けており、安心できる環境づくりを行っている。	・建物の構造上、おもちゃや備品を教室内に一定量置く必要があり、現状でもシートで覆っているが多少見えてしまっている。児童の生活の刺激にならないようパーテーションやカーテンで間仕切りを行い、より落ち着いた空間づくりを行っている。
2	・人員配置が充実している。	・ご利用児童と職員比率が規定の比率よりも充実しており、細やかな関わりを行うことができる。	・個人と全体をよく見て支援にあたり、児童のモヤモヤした気持ちをヒヤリングしたり、グループ活動などでは職員も一体となって活動を展開して内容を充実していく。
3	・イベントが豊富であり様々な経験をすることができる。	・身体的な発達過程をモニタリングする活動以外は毎日イベント内容が異なっており、児童の得手不得手や好き嫌いに合わせながらも職員や他児童と一緒に様々なことにチャレンジすることができる。 ・外出先の詳細確認や予約など、施設や店舗との連携を行い、児童支援への影響を最小限にしている。	・外出先が広範囲であるため、利用児童の生活圏内での外出先を設定して、児童がtoiro白楽だけでなく日常生活の中でもできることを増やしていけるようにイベントを検討していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・自発的なスケジュール確認のしやすさ	・ホワイトボードによるスケジュール確認を行っているが、1日のスケジュールを掲示しているため、全体像を把握しやすい反面「今行っていること」や「次行なうこと」に焦点を当てることが難しい。	・児童によって個別の視覚支援用のボードを用意しているが使用頻度は少ない。決められた場所で行い見通しを立てて過ごすことの習慣化を促していく。 ・また、ホワイトボードの視覚支援の量は言語指示や一斉指示の通りやすさに起因して調整されているが、より細分化して具体化することで自らホワイトボードを確認したり、掲示する量を減らすことで情報量を調整していく。
2	・保護者様や外部機関との連携	・口頭や文章での情報共有が主軸になっており、児童や職員の活動風景を実際にご覧いただく機会を設けられていない。	・親子参加型のイベント立案を行ったり、参観日を設けて保護者交流の場を設けていく。 ・児童の学校やご利用の他放課後デイサービスとの連携を取り、包括的支援を目指していく。
3	・クールダウンや静養スペースの確保	・建物の構造上、教室の壁上部が70cmほど開いて他の部屋の音が聞こえる状態となっている。クールダウンや静養のためのスペースも同様の構造をしているため、完全な個室とはならず刺激が入ってくる状態である。	・遮音カーテンなどを設置して可能な限り静かな空間を整えていく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	放課後デイサービスtoiro白楽		公表日		2025年 3月 10日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	5	・人数が多いと狭く感じるが、安全に活動できるようグループ分けなどを行っている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	7	・個別対応児童が多い日は、配置人数が足りていても工夫が必要である。	・勤務人数や技量の差によって異なる。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	7	・玄関や廊下などに視覚支援が用意されている。	廊下の入口は段差があり、バリアフリーの対応は難しい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	4	・毎日清掃を行っており、清潔である。	・換気場所が少ない。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	5	・面談室や廊下以外では個別スペースを設けることは難しく、室内にパーティションを設けるなど工夫している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	5		・振り返りの程度に個人差がみられる。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	6		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	5		・意見を聞いてもらえる機会はあるが、改善されているかどうか、現状難しさを感じる。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	7		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	13	0		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12	1		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	11	2		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12	1	・日々の児童共有をこまめに行うことで、職員が児童の共通理解ができるよう努めている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10	3		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	5		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	5		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	7	・毎月担当者が作成するが、イベント案を募集するなど、マンネリ化を防いでいる。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	13	0	・毎月担当者が作成するが、イベント案を募集するなど、マンネリ化を防いでいる。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	12	1		

適切な支援の提供	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	13	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	5		・業務時間内では難しいが、特記事項を振り返ったり全体連絡ツールで共有するなどしている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	13	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	13	0		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	12	1		
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	12	1		・児童が興味のあるイベント活動を行うなどの工夫がみられる。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	5		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	8		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	13	0		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	7		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	8		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	8		SV巡回訪問の予定あり
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	8		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	8		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	13	0		
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	8		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	4		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10	3		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	11	2		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	11	2		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	8		

保護者への説明等	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11	2		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	13	0		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	13	0		
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	13	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	9		・地域交流は少ないが、どれだけできるかは分からない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11	2		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	11	2		・屋外に避難するが、最終的な避難場所にまで行く避難訓練を行うことが少ない。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	13	0		
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	13	0	・おやつ準備の際にアレルギー児対応しやすくなっている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	11	2		
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	5		・非常災害時の連絡手段や合流場所など、決定事項の共有があるとよい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	13	0	・職員全員が確認できる連絡ツールで共有をしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	13	0		
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	13	0		